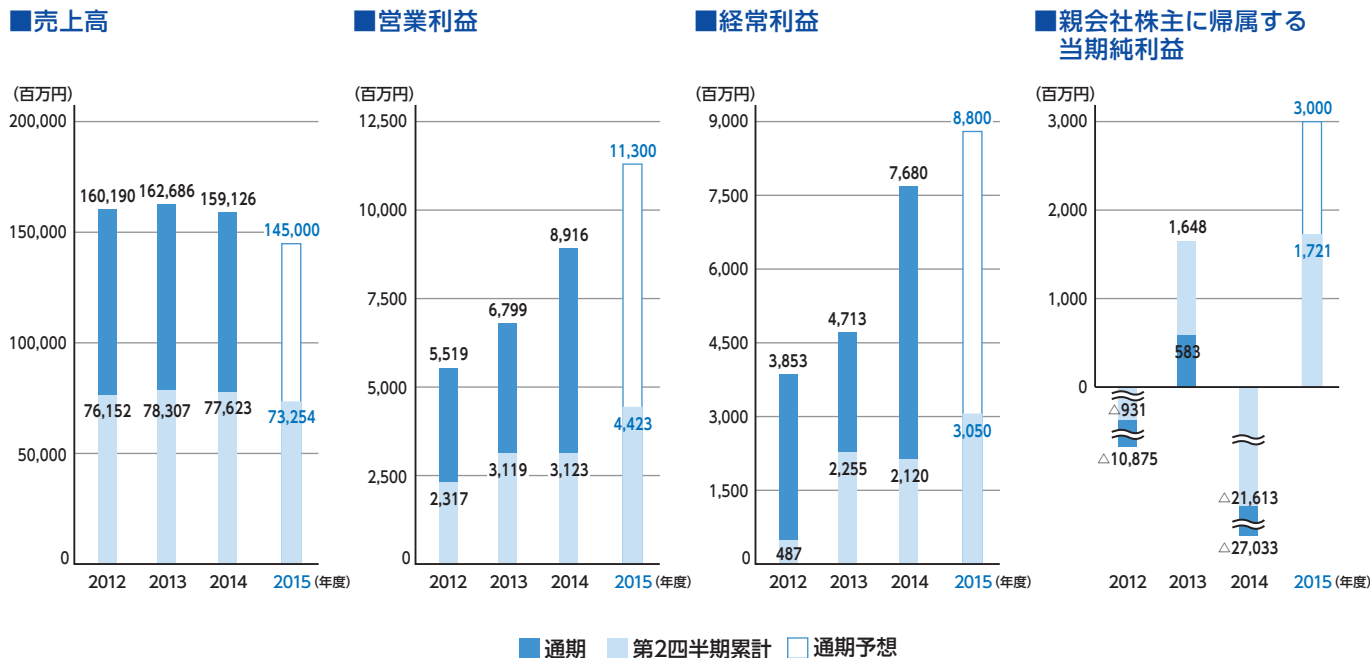


株主通信

平成27年4月1日～平成27年9月30日

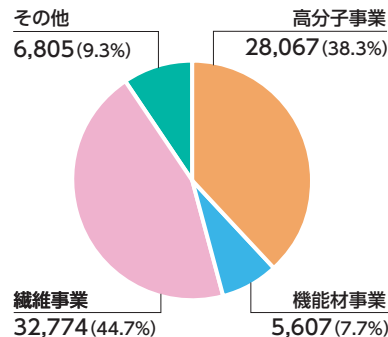


連結業績の推移

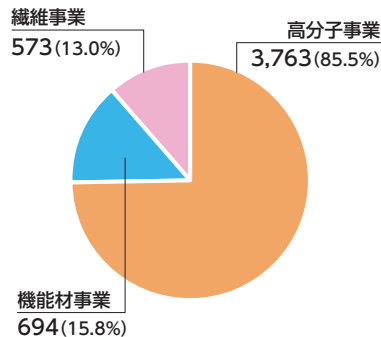


■セグメント別 当第2四半期累計期間における売上高・営業利益 (単位:百万円)

売上高(構成比)



営業利益(構成比)



売上高

合計 73,254百万円

営業利益

合計 4,423百万円

※セグメント別の営業利益及び構成比は、調整額調整前の数値で表示しています。(合計4,399百万円)。

※営業利益(構成比)の「その他」は営業損失となっておりますので、表示していません。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろよりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第206期第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から同9月30日まで)の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の成長戦略に基づく経済政策の実施や円安基調が続く中、輸出関連企業を中心に業績が改善し、原油価格下落の影響、雇用・所得環境の改善なども背景に緩やかな景気回復基調が続きました。一方で、消費者物価の上昇や中国経済の景気減速を発端とした新興国経済の成長率の鈍化など、景気を下押しするリスクも存在し、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループは、昨年度からスタートした中期経営計画に掲げる成長戦略の早期実現に向け、高分子事業を中心とする機能素材メーカーとしての基盤強化及び低採算事業の構造改革に努めてまいりました。なお、当第2四半期連結累計期間中には、当社連結子会社のユニチカパークシャー株式会社、株式会社ユニチカ環境技術センターなどの株式譲渡を完了したほか、当社グループが所有する豊橋事業所に係る不動産を譲渡することを決定しました。この結果、当第2四半期連結累計期間につきましては、売上高は73,254百万円(前年同四半期比5.6%減)、営業利益は4,423百万円(同41.6%増)、経常利益は3,050百万円(同43.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,721百万円(前年同四半期は21,613百万円の損失)となりました。

なお、中間配当につきましては、引き続き見送ることとさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、当社グループは、中期経営計画に掲げる成長戦略施策を引き続き着実に実行してまいります。具体的には、フィルム事業では、新バリアナイロンフィルムなど包装用途での拡販や高耐熱ポリアミドフィルムなど工業分野向けの採用拡大を図ります。また、インドネシア子会社のP. T. EMBLEM ASIAに増設し

たナイロンフィルム大型新鋭機につきましては、本年度から本格稼働を開始しており、生産能力の増強による東南アジア市場でのシェア拡大や欧米市場での拡販を目指します。樹脂事業では、環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」や高耐熱性ポリアミド樹脂「ゼコット」などの用途拡大、拡販を実行いたします。また、不織布事業では、タイ子会社のTHAI UNITIKA SPUNBOND CO.,LTD.でのポリエステルスパンボンドの生産設備増設準備を進めており、グローバルシェアの拡大に努めてまいります。

また、事業ポートフォリオ改革につきましては、当初計画に基づく事業撤退・売却を今年度中に完遂させる予定です。

組織機能強化につきましては、本年4月に組織改定を行い、業務執行に対する権限と責任をより明確にすることで、高収益体質への転換と財務内容の改善を進めております。管理共通費につきましては、今後も継続してコスト削減を徹底してまいります。

中期経営計画の実現に向け、スピードをもって経営施策を進めるとともに、全社一丸となって「新生ユニチカ」を実現するために、不転換の覚悟で取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月



代表取締役社長

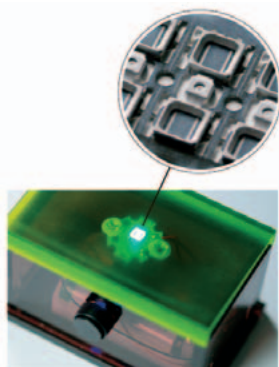
注連 浩行

セグメント別の状況

高分子事業

フィルム事業では、包装分野は、猛暑の影響により冷製食品包装用途が好調に推移し、国内では販売数量が増加しましたが、海外では東南アジアや中国での景気減速の影響を受けやや低調に推移しました。新バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」については、順調に販売数量を伸ばしました。工業分野は、シリコンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」や耐熱ポリアミドフィルムなどの高付加価値品が電気・電子機器用途に拡販できたこともあり、売上げが増加しました。この結果、事業全体で増収増益となりました。

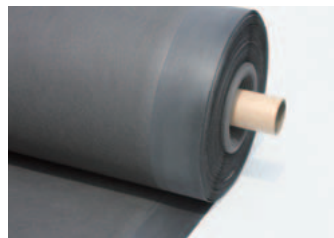
樹脂事業では、ナイロン樹脂は、国内自動車産業の低迷などにより売上げは横ばいとなりましたが、熱可塑性飽和共重合ポリエステル樹脂「エリーテル」や環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」は、太陽電池用途などでの販売が好調に推移し、また熱可塑性ポリエステルシート「ユニレート」も電気・電子機器用途などで伸長



高耐熱ポリアミド樹脂・次世代スーパーエンブラ「ゼコット」 使用例：LEDリフレクター



高ガスバリア性ナイロンフィルム「エンブレムHG」



除染廃棄物処理用建築資材「エルバスキャッピングシート」

しました。当社独自のポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、情報端末機器用途で好調に推移しました。この結果、事業全体で売上げは横ばいでしたが、増益となりました。

不織布事業では、ポリエステルспанボンドは、国内の生活資材用途で堅調に推移しましたが、国内の農業用途や建築用途等を中心に売上げが減少し、輸出も中国の景気減速の影響を受けて低調に推移しました。コットンспанレースは、インバウンド需要の拡大を背景に生活資材用途で売上げを伸ばしました。この結果、事業全体で減収増益となりました。

以上の結果、高分子事業の売上高は28,067百万円（前年同四半期比0.2%増）、営業利益は3,763百万円（同51.1%増）となりました。

■高分子事業 売上高・営業利益

売上高

合計 28,067百万円

営業利益

合計 3,763百万円

セグメント別の状況

機能材事業

ガラス繊維事業では、産業資材分野は、建築用途の販売は堅調でしたが、土木用途で低調に推移しました。電子材料分野のICクロスは、情報端末機器用途での需要が低迷したため汎用品の販売が低調に推移しましたが、高付加価値品の販売は概して堅調でした。ガラスビーズ事業では、ロードマーキング用途で販売数量が回復しましたが、工業用途や反射材用途で売上げが減少しました。また、活性炭繊維事業では、工業分野などで堅調に推移しましたが、主力の浄水器用途で需要が回復せず、低調に推移しました。

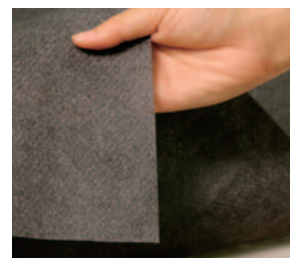
以上の結果、機能材事業の売上高は5,607百万円（前年同四半期比7.0%減）、営業利益は694百万円（同19.0%増）となりました。



ガラス長繊維



ガラスビーズ「ユニビーズ」
使用道路（白線）



高性能VOC除去シート



活性炭繊維フィルター

■機能材事業 売上高・営業利益

売上高

合計 5,607百万円

営業利益

合計 694百万円

セグメント別の状況

繊維事業

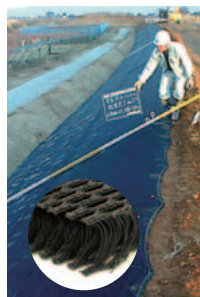
産業繊維事業では、ポリエステル高強力糸は、主力の土木用途で販売数量が低調に推移しましたが、複合繊維である「メルセット」など高採算製品への販売転換が進み、収益は改善しました。ポリエステル短繊維は、事業構造改革に伴う低採算製品の販売縮小と高採算製品への販売転換が進み、収益は大きく改善しました。

衣料繊維事業では、ユニフォーム分野は、ワーキング用途の在庫調整などにより売上げが減少するとともに、円安による調達コスト上昇の影響を受けました。また、スポーツ分野は、低調でしたが、レディス分野は、二次製品販売が増加するなど堅調に推移しました。海外ではデニムの輸出が引き続き好調に推移しました。

以上の結果、繊維事業の売上高は32,774百万円(前年同四半期比11.2%減)、営業利益は573百万円(同754.7%増)となりました。



衣料用途



土木用途



バイオマスプラスチック「テラマック」
3Dプリンターフィラメント

■繊維事業 売上高・営業利益

売上高

合計 32,774百万円

営業利益

合計 573百万円

その他

その他の事業につきましては、事業ポートフォリオ改革に伴う株式譲渡、事業譲渡、清算の影響などにより、その他の売上高は6,805百万円(前年同四半期比2.1%増)、営業損失は631百万円(前年同四半期は32百万円の損失)となりました。

■その他 売上高・営業損失

売上高

合計 6,805百万円

営業損失

合計 631百万円

財務諸表(要旨)

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成27年 3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成27年 9月30日)
(資産の部)		
流動資産	112,814	105,824
固定資産	123,067	120,784
有形固定資産	116,443	114,061
無形固定資産	1,485	1,554
投資その他の資産	5,138	5,168
資産合計	235,882	226,608
(負債の部)		
流動負債	43,842	35,277
固定負債	160,449	158,627
負債合計	204,291	193,905
(純資産の部)		
株主資本	29,191	28,625
その他の包括利益累計額	△ 837	769
非支配株主持分	3,236	3,307
純資産合計	31,590	32,703
負債純資産合計	235,882	226,608

資産

2,266億**8**百万円
(前期末比 92億73百万円 減)

主として売上債権、たな卸資産及び有形固定資産が減少したことにより、資産は減少しました。

負債

1,939億**5**百万円
(前期末比 103億85百万円 減)

主として仕入債務及び引当金が減少したことにより、負債は減少しました。

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

財務諸表(要旨)

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	77,623	73,254
売上原価	62,640	58,264
売上総利益	14,982	14,989
販売費及び一般管理費	11,858	10,566
営業利益	3,123	4,423
営業外収益	1,083	509
営業外費用	2,085	1,882
経常利益	2,120	3,050
特別利益	-	546
特別損失	23,667	862
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△21,546	2,735
法人税等	65	1,000
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△21,612	1,734
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	13
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△21,613	1,721

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

営業利益

44億23百万円

(前年同四半期比 13億円 増)

高分子事業、機能材事業、繊維事業のセグメント利益は、全て増加しました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,348	2,390
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,249	△784
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,557	△1,716
現金及び現金同等物に係る換算差額	△35	△200
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	11,620	△310
現金及び現金同等物の期首残高	19,557	31,708
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,177	31,397

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

投資活動による キャッシュ・フロー

△7億84百万円

(前年同四半期は2,249百万円)
の資金の減少

事業ポートフォリオ改革に伴う資産の売却による収入を計上しましたが、設備投資に伴う支出などにより、減少しました。

眠りの質を高める3Dメッシュ構造 快適敷きマットレス

「キュービック・ボディー®」

ユニチカテクノスは、これまでにない新感覚の寝心地を実感できる高反発敷きマットレス「キュービック・ボディー」を開発しました。クッション材に高通気性メッシュ素材の三次元立体編物「キュービックアイ」の厚地高反発タイプを採用。体の一部分にかかる圧力を点から面に分散する体圧分散性、寝姿勢をしっかり維持する高反発性を両立させました。カバーには「キュービックアイ」と不規則凹凸構造の「キュービックアイ ピケ」を採用。蒸れやすい背中から腰部分の通気性をさらに向上させました。夏も冬も温度、湿度が快適に保たれます。絶妙のクッション性と優れた通気性の「キュービック・ボディー」で、天空の寝心地と質の高い眠りを体感してください。



【お問合せ先】株式会社ユニチカテクノス
 TEL: 06-6360-7781 FAX: 06-6360-7783
www.unitika.co.jp/technos/product/c_05.html

日本の近代化の歩み、繊維産業の歴史をいまに伝える

ユニチカ記念館

ユニチカ記念館は、ユニチカの前身である尼崎紡績株式会社が、1900年(明治33年)に竣工した建物を修復し、記念館としたものです。尼崎市に現存する洋式建物としては最古のもので、当時の建築様式を探究するうえで貴重な存在となっています。館内には、明治時代の産業の黎明期に紡績業のパイオニア的

役割を果たし、日本の産業の発展に貢献した有限責任尼崎紡績会社の記録文書を始めとする、数多くの資料、写真、先覚者の遺墨などが展示されています。また、東洋の魔女と呼ばれた女子バレーボールの歴史を物語る資料や写真なども閲覧することができます。



【ご来館案内】

所在地: 兵庫県尼崎市東本町1-50

開館日: 毎週水曜日

※臨時休館することがありますので、
 ご来館前にお電話でご確認ください。

開館時間: 午前10時～12時
 午後1時～3時

入館料: 無料

交通アクセス: 阪神電鉄「大物駅」下車、
 南東へ徒歩約7分

お問合せ: TEL.06-6481-0525

ユニチカグループの紹介

ユニチカ(上海)貿易有限公司

ユニチカ(上海)貿易有限公司は、2004年9月、中国華東地域の経済発展に伴い、日系企業が集中している虹橋地区に設立された現地法人です。ユニチカの主力製品であるナイロンフィルム、エンジニアリングプラスチック、ポリエステル不織布のほか、成長が期待される活性炭繊維や産業繊維まで幅広く取り扱っています。取引先も日系企業から中国・欧米企業まで多岐にわたっています。また、昨年には、広州に支店を設立し、華南地域への販路を拡大しております。ダイナミックに変動する中国市場での拠点として、ビジネス拡大に取り組んでまいります。

【会社の概要】

社名：尤尼吉可(上海)貿易有限公司
 総経理：岩谷 浩樹
 事業内容：ユニチカグループの製品貿易
 所在地：上海市長寧区婁山関路83号
 新虹橋中心大廈3301室
 TEL：+(86)-21-6126-8585
 設立：2004年9月22日
 資本金：9,438,140元
 出資者：ユニチカ(株)100%



株式の状況 (平成27年9月30日現在)

- 発行済株式総数

普通株式	577,523,433株
A種種類株式	21,740株
B種種類株式	5,759株
C種種類株式	10,000株
- 株主総数

普通株式	51,976名
A種種類株式	1名
B種種類株式	2名
C種種類株式	1名
- 大株主

株主名	株式数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	普通株式 26,808 <small>千株</small>	4.64%
株式会社三菱東京UFJ銀行	普通株式 23,345	4.05
	A種種類株式 21	
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	普通株式 16,795	2.91
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	普通株式 16,625	2.88
ユニチカ従業員持株会	普通株式 11,383	1.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	普通株式 8,451	1.46
大同生命保険株式会社	普通株式 8,000	1.38
東京海上日動火災保険株式会社	普通株式 6,498	1.12
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	普通株式 6,361	1.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	普通株式 6,239	1.08

(注1) 持株比率は自己株式(801,749株)を控除して計算しております。

(注2) 上記A種種類株式(株式会社三菱東京UFJ銀行 21,740株)のほか、B種種類株式(株式会社みずほ銀行 3,635株、三菱UFJ信託銀行株式会社 2,124株)及びC種種類株式(ジャパン・インダストリアル・ソリューションズ第巻号投資事業有限責任組合 10,000株)を平成26年7月31日に発行しました。

(注3) A種種類株式、B種種類株式及びC種種類株式は、優先株式であり、議決権がありません。

会社の概要 (平成27年9月30日現在)

社名：ユニチカ株式会社
 創立：明治22年6月19日
 資本金：100,450,000円
 本店：兵庫県尼崎市東本町一丁目50番地
 大阪本社 〒541-8566
 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号
 電話 06-6281-5722
 (人事総務部法務グループ)
 東京本社 〒103-8321
 東京都中央区日本橋本石町四丁目6番7号
 電話 03-3246-7540
 (人事総務部東京総務グループ)
 研究所：中央研究所(宇治)
 事業所：宇治事業所・岡崎事業所
 垂井事業所・坂越事業所
 営業所：名古屋
 従業員数：連結 4,023名 単体 1,151名

役員 (平成27年9月30日現在)

代表取締役社長	執行役員	辻連 浩行
代表取締役専務	執行役員	安岡 正晃
代表取締役常務	執行役員	上埜 修司
取締役	執行役員	阪田 誠造
取締役	執行役員	長谷川 弘
取締役	執行役員	榎田 晃
社外取締役		半林 亨
社外取締役		高 捷雄
監査役(常勤)		永田 直彦
監査役		小畑 政信
社外監査役		河内 義人
社外監査役		竹内 芳久

執行役員 (平成27年9月30日現在)

上席執行役員	田頭 弘美
上席執行役員	森川 光洋
上席執行役員	竹歳 寛和
上席執行役員	富岡 弘之
執行役員	細田 雅弘
執行役員	岡 和貴
執行役員	北野 正和
執行役員	石川 省二
執行役員	久内 克秀
執行役員	吉村 哲也

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

公告方法 電子公告（当社ウェブサイトに掲載）

www.unitika.co.jp/ir/notice/index.html

ただし、事故その他やむを得ない事由に

よって電子公告による公告ができない場

合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777（通話料無料）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。

株式に関する『マイナンバー制度』のご案内

マイナンバー制度の導入により、市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。このため、株主さまがお取引している証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

■株式関係業務におけるマイナンバーの利用

○法令に定められたとおり、支払調書に株主さまのマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

※主な支払調書

- ・配当金に関する支払調書
- ・単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

■マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

○証券口座にて株式を管理されている株主さま

お取引の証券会社にお問い合わせください。

○証券会社とのお取引がない株主さま

以下のフリーダイヤルまでお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 フリーダイヤル 0120-094-777

